

たていしブックスポット
はじまるよ！

2012. 4. 6

みなさん、
本、読んでますか？
図書館、使ってますか？

本は「必要」なものなのでしょうか？

「島だからこそ、本が必要」
ってどういうこと？？



立石港は広い。そして、新しく、きれいだ。



ここは、船に乗るためだけの場所？
もったいないなあ。

図書館員の役割ってなんだろう？



上島町には、町立の図書館はありませんが、せとうち交流館や各地域の公民館にある「図書室」で本を借りることはできます。いずれも本のプロである司書はおらず、本がただ並べられている場所となってしまっています。

司書はなぜ必要なのでしょう？司書の役割は、「**本と人の橋渡し**」をすることです。図書館に来る人が快適に利用できるよう設備を整えること、地域の人々が集まってくる図書館に変えていき、図書館と人々とを結び付ける役割を担っています。

図書館が、「図書」館ではなく、「図書館」として存在するには、利用者があってこそ。司書を代表とする図書館員の仕事は、利用してもらえるような工夫をすることなのではないでしょうか？

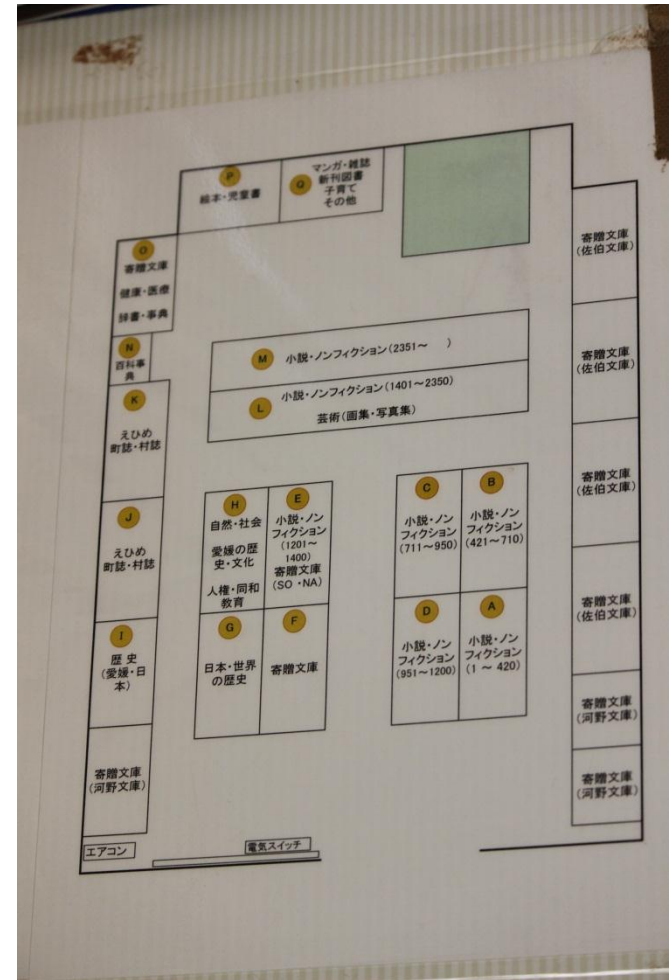
なぜ、本は分類しなければならないのか？

本には、分類番号というものがあります。日本のほとんどの公共図書館、学校図書館、大学図書館で使用されているのが、日本十進分類法(NDC)というもので、

0: 総記、1: 哲学、2: 歴史、3: 社会科学、4: 自然科学、5: 技術／工学／工業、6: 産業、7: 芸術、8: 原語、9: 文学を基本に、さらに細かく分けていきます。

膨大な本が不規則に並んでいたら、読みたい本を見つけるのが大変です。だから、分類をして、整理をして並べるようになったのです。

しかし、見つけやすさだけが分類の意義ではなののでしょうか？



図書館は、知識の体系化の場である

図書館の利用の仕方として、「**ブラウジング(browsing)**」という言葉があります。コンピュータ関連でも「ブラウザー」や「ブラウジング」というのはよく耳にしますが、図書館や書店においての「ブラウジング」は実際に書架の間を歩きながら本を探すこと、あるいは何気なく本の背(書架でタイトルが見えている部分)を見て回ることも指しています。

私の母校の大学の図書館だよりで、保健体育科の先生がこんなことを書いています。

「今日でも、たくさんの本が並んだ書棚の間を歩き回り立ち読みが出来るシステムの良さをもう一度見直す必要があるように思う。情報収集で一番効率のよい方法はもちろんデータベースへのアクセスであるが、直接的なデータ以外の周りにあるものを見落としてしまうことは危険である。例えば新聞の縮刷版や関連記事のスクラップで新聞全体や広告なども見ないと、その時代における体力の問題がどのように扱われていたかを理解することはできない。教養学部教育とはいろんなことをベースにして、いろんなことと関連づけてものごと(自分の分野)を考えることができる人を育てる教育なのだと思う。ICUの図書館で**体育関係の書棚に行くには社会科学、教育に関連する書棚を通過して行く。健康・体力に関する書棚の後ろは自然科学の書棚である。体育関係の雑誌のバックナンバーがある書棚の隣は哲学関係の雑誌と刺激的である。**私は、外からの情報を収集する場所としてだけでなく、**自分の知識を整理する場**としてこれからも図書館を利用させていただきたいと思う。」(Libertas No.5 1995)

データベースやAmazonは、欲しい情報をクイックに入手することを得意としますが、得た情報や本が、全体の中でどの位置を占めているのかわかりにくいことがあります。図書館の書架を巡ることで「情報を得る」ことだけでなく「**知識**」が**体系立てられ情報を吟味する力が養われる**のではないのでしょうか。

本は必要か？



「本には効き目なんかないんです。振り返ってみたら効き目があったということにすぎない。あのときあの本が、自分にとってはああいう意味があったとか、こういう意味があったとか、何十年も経ってから気がつくんですよ。」(145)

「本を読むから考えが深くなる、なんていうことはあまり考えなくてもいいんじゃないでしょうか。本を読むと立派になるとかいうとそんなことはないですからね。読書というのは、どういう効果があるとかいうはないですから。それよりも、子どものときに、自分にとってやっぱりこれだという、とても大事な一冊にめぐり逢うことのほうが大切だと思いますね。」(146)

宮崎駿『本へのとびら』、岩波新書、2011

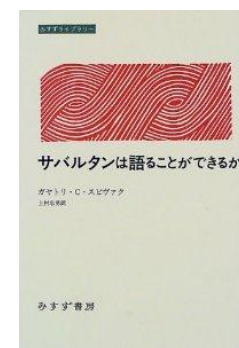
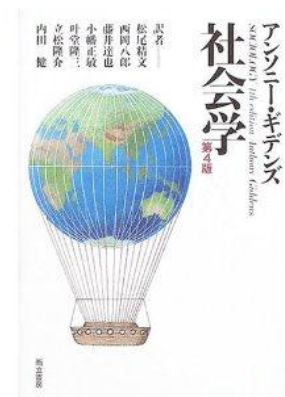
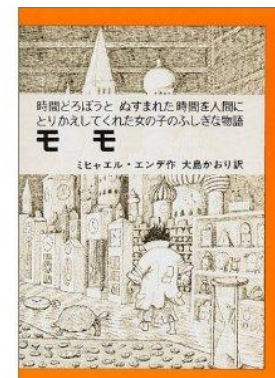
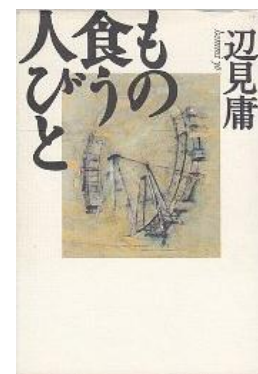
島だからこそ、本が必要だ。

人口が少なくなることも、高齢化が進むことも悪いことだとは思いません。しかし、文化過疎になってはならないと思います。他の文化に接触する機会が限られている場こそ、本は必要です。

自分とは「違う」文化や人に出会うことで、私たちは、自分自身を見つめ直します。「正しい」と思っていたことを疑ってみます。物事を、社会をクリティカルに見るという視点は、世界を広げるということなのです。

保育所からみんな一緒に育つ、島のコミュニティはとても近くて、深いです。そこにある絆は、うらやましくくらい強い。でも、それだけでは足りないこともあると思うのです。

ブックスポットで出会った本が、誰かにとって大切な1冊になれば、それでいいと思います。



idea

いろんな本屋があるんです。



OLD/NEWSELECTBOOKSHOP「百年」（吉祥寺）

コミュニケーションする本屋でありたい。売ることの誠実さは、ある本を評価し値段を決定するということに対しての責任を持つことであり、買うことの誠実さは、傲慢かもしれないがその価格に対して納得し購入することだ。（古本屋にとってそのバランスこそが一番大事で面白いところ。）古本屋に限ったことじゃないけど、こういったことを感じる機会が減ったように思う。「誠実」さがあれば、日々の生活がわずかかもしれないけど豊かになると信じている。



大人の本屋 バサラブックス(吉祥寺)

【LOVE & BOOK】に「面白い本を、安く、手軽に」をモットーとして、厳選した本を取りそろえております。名作の文庫本やアク・コクがある本と一緒に、コンドーム等のラブグッズを気軽にお買い求めできる場所です。

たていしブックスポット(TBS)が目指すこと

本を通じて、人が集まる場となる

本を通じて、コミュニケーションが生まれる

様々なジャンルの本に接することができる

集まった人たちが、新しいものを創りだす場となる

本だけではなく、食、音楽、演劇、ダンス、科学など、

様々なアーツの交流場となる

TBSに行ったら、何か楽しいことがある

私たちの仕事は、そんな場づくりを行うことだ

schedule

今年度のテーマ(仮)

month	content
4月企画展	わたしの好きな本(生名小)
4月	時間
5月イベント	読み聞かせ
5月	本
6月企画展	わたしの好きな本(役場職員)
6月	SECRET
7月イベント	
7月	
8月イベント	
8月	
9月イベント	
9月	
10月企画展	
10月	

month	content
11月	SECRET
12月	
12月	
1月	
2月	